

# 京都府生協連ニュース

<第63回通常総会特集>

2016年8月9日・No.87(通算153号)

京都府生活協同組合連合会

京都市中京区烏丸通二条上る蔭絵屋町258番地

コープ御所南ビル4階

TEL. 075-251-1551

FAX. 075-251-1555

## 第63回通常総会開催

～全議案を満場一致で可決～

6月14日(火)、コープ.イン.京都で開催



<ご来賓からご祝辞をいただきました>



開会のあいさつをする  
上掛 利博会長理事



京都府山田啓二知事代理  
京都府府民生活部 西川 定彦部長



京都労働者福祉協議会  
橋元 信一会長

# 京都府生協連第63回通常総会報告

6月14日（火）午後1時30分から、コープ・イン、京都2階202号室で、京都府生活協同組合連合会第63回通常総会を開催しました。総会の代議員総数は44人で、本人出席29人、委任出席2人、書面出席12人でした。

来賓および理事・監事・オブザーバーあわせて、85人が参加しました。畑忠男副会長理事による開会宣言のあと、上掛利博会長理事が開会のあいさつをのべ、ご来賓の京都府府民生活部・西川定彦部長（京都府山田啓二知事代理）、京都労働者福祉協議会・橋元信一会长から、ご祝辞をいただきました。オブザーバーとして、日本生協連関西地連・小林紀久子事務局長はじめ、

23人が参加しました。竹内譲厚生労働副大臣はじめ、地元選出の国会議員、各関係団体、各生協などから84通の祝電・メッセージがよせられたことを酒向事務局長が紹介しました。高取淳専務理事が第1号～第5号議案を提案し、石井聡監事が監査報告をおこないました。代議員・オブザーバーから8件の発言があり、高取淳専務理事が討論のまとめをおこないました。提案した議案のすべてが満場一致の賛成で可決されました。

総会後に第1回の理事会、監事会が開催され、会長理事に上掛利博氏、副会長理事に畑忠男氏、同・中森一朗氏、専務理事に高取淳氏、特定監事に今西静生氏が就任しました。



開会宣言をする  
畑 忠男副会長理事



議案提案をする  
高取 淳専務理事



監査報告をする  
石井 聡監事

## ■祝電・メッセージをお寄せいただいた方々<順不同・敬称略6月14日現在>

厚生労働副大臣衆議院議員公明党	竹内 譲	衆議院議員自由民主党	田中 英之	衆議院議員民進党	泉 ケンタ
衆議院議員民進党	北神 圭朗	衆議院議員日本共産党	こくた恵二	参議院議員自由民主党	二之湯 智
参議院議員民進党	福山 哲郎	参議院議員日本共産党	市田 忠義	参議院議員日本共産党	井上さとし
参議院議員日本共産党	倉林 明子	京都市長	門川 大作	京都府議会議長	植田 喜裕
京都府社会福祉協議会会長	位高 光司	京都市社会福祉協議会会長	村井 信夫	京都商工会議所会頭	立石 義雄
京都府農業協同組合中央会会長	中川 泰宏	京都府漁業協同組合代表理事組合長	西川順之輔	京都府森林組合連合会代表理事会長	青合 幹夫
弁護士	大河原としたか				

## ■全議案が満場一致で可決されました

議案	賛成	反対	保留	合計
第1号議案 2015年度活動報告・決算関係書類等承認の件	42	0	0	42
第2号議案 誰もが安心してらせる地域・社会づくりをめざして ～新・京都の生協の課題と京都府生協連の役割～決定の件	42	0	0	42
第3号議案 2016年度方針・活動計画および予算決定の件	42	0	0	42
第4号議案 2016年度役員選任の件	42	0	0	42
第5号議案 2016年度役員報酬決定の件	42	0	0	42

※出席代議員は合計43人（本人出席29 委任出席2 書面出席12）、うち議長1人は採決に参加せず。

### 【京都府生協連 2016年度役員体制】（6月14日現在） \*新任

＜会長理事＞ 上掛 利博（員外）	上総紫香子（生協生活クラブ京都エル・コープ副理事長） 川村 幸子（京都生協副理事長）
＜副会長理事＞ 畑 忠男（京都生協理事長） 中森 一朗（大学生協京都事業連合専務理事）	酒井 克彦（立命館生協専務理事）* 坂本真有美（生協コープ自然派京都理事長） 杉本 頼正（京都高齢者生協くらしコープ副理事長）* 堂本 吉次（やましろ健康医療生協専務理事） 鯉江 賢光（京都生協常務理事）* 林 章司（京都工芸繊維大学生協専務理事）* 山川 修司（全京都勤労者共済生協専務理事）
＜専務理事＞ 高取 淳（員外）	
＜常任理事＞ 本多 浩（京都府庁生協専務理事） 中島 達弥（京都大学生協専務理事）	＜特定監事＞ 今西 静生（京都府庁生協元専務理事）
＜理事＞ 大森 俊次（京都医療生協専務理事）* 岡田 照雄（京都市民共済生協専務理事） 小野留美子（乙訓医療生協専務理事）	＜監事＞ 石井 聡（京都生協常勤監事） 鯉迫 裕子（龍谷大学生協専務理事）*

### 【理事・監事を退任されたみなさん】（順不同）

＜理事＞崎濱 誠さん・柴田 弘美さん・末廣 恭雄さん・田中 弘さん・長 誠一郎さん

＜監事＞五藤 実さん

### 【事務局】

事務局長 酒向 直之

事務局担当 川端 浩子

事務局担当 岡本 朋子

### 会 員 生 協

京都生活協同組合

生活協同組合コープ自然派京都

生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ

京都大学生協同組合

同志社生活協同組合

立命館生活協同組合

龍谷大学生協同組合

京都府立医科大学府立大学生協同組合

京都工芸繊維大学生協同組合

京都教育大学生協同組合

京都橘学園生活協同組合

池坊学園生活協同組合

京都経済短期大学生協同組合

京都府庁生活協同組合

京都医療生活協同組合

やましろ健康医療生活協同組合

乙訓医療生活協同組合

全京都勤労者共済生活協同組合

京都市民共済生活協同組合

京都高齢者生活協同組合くらしコープ

大学生協同組合京都事業連合

## ■8人の代議員・オブザーバーから発言がありました。発言要旨を以下に掲載します。

### 1. 京都生活協同組合 渡邊 孝子 代議員

#### 「2015年度の京都生協の特徴的な取組み」



宅配、店舗、くらしサポート三つの事業を中心に展開し、2015年度総事業高は743億円、組合員数は52万人を超えている。2015年は5年に一度開かれるNPT再検討会議に京都生協から2名の組合員を代表派遣し、核兵器廃絶への願いを世界に届けた。日本原水爆被爆者団体協議会（日本被団協）より48人と全国45生協から91人が参加した。現地では被爆者をサポートしながら世界中から集まった人々と一緒に核廃絶へむけたアピール行動に参加した。帰国後は地域で30回以上の報告会を開催し、平和への願いを広げる取組みを

すすめている。1月28日には、平和活動交流会を開催し、日本被団協事務局次長藤森俊希氏に「再び被爆者をつくらないために」と題して記念講演をお願いした。121人が参加した。参加者は「今日の聞き手は明日の語り手に」という藤森さんの言葉を胸に子どもたちに平和な未来を残すためにこれからも戦争や被爆の体験を継承していく役割を確認した。その他の取組みでは、買い物が困難な方への支援として「移動店舗おかいもの便」の営業と、「お買物サポートカー」の運行も開始した。行政と連携した見守り活動の輪を広げるとともに高齢者向けの見守りの一環としての夕食サポート事業を城陽市、八幡市などにも広げることができた。

### 2. 生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ 山路 容子 代議員

#### 「再生可能エネルギーと私たちの活動～エネルギーを作る・使う・削減する～」



設立当初からエネルギー問題や環境問題などについて考え活動を展開してきた。2011年の原発事故を受けて、2012年1月の臨時総代会で、脱原発宣言を決議し、日々の活動のなかで、省エネルギーの学習と行動をすすめていくことを決意。この決意のもとに映画「シェーナウの想い」の上映会（34か所、のべ180人参加）を開催。2013年度のアソシエ会議を経て、2014年度総代会で、東センターに太陽光発電所を設置することを決議。組合員全員で出資した発電所を持つという意義ある決意であった。意志ある組合員で「太陽光パネルあげたい」を結成。「パネル

あげたいまつり”の開催やオリジナル手ぬぐい作りなどの活動を展開した。様々なイベント、学習会の場で出資金を募り、当初の目標額をこえる特別出資金が集まった。発電所の名称「ありがとSUN」は、組合員から募集した。2014年10月に稼働し、関電に充電をはじめた。生活クラブ全体でも電力供給事業会社「株式会社生活クラブエナジー」を設立し、2015年4月からは事業所に供給を開始。2016年10月からは京都でも供給開始の予定。再生可能エネルギーの電源を生活クラブの事業所や組合員家庭で購入することが可能になった。私たちは、電気を共同購入することにより電気の素性を明らかにし、多くの組合員が参加することで世の中を変えていく可能性を追求したいと思っている。

### 3. 生活協同組合コープ自然派京都 服部 五月 代議員

#### 「食の安全・安心、より良い食生活と健康・食育」



2015年度自然派京都の「食の安全・安心」について報告する。自然派の商品をよく知る機会として他社商品と比べる「MDラリー」を6回開催した。MDラリーは、自社商品と数社の他社商品との比較をおこなうことであるが、今年は気軽に取り組むことを目的に2つの商品を比較する

「簡単MDラリー」にも取り組んだ。食品では「醤油」「食パン」「ハム」「ちくわ」「米」、非食品では「ハンドソープ」をおこなった。添加物などについて事前に商品部に問合せ、資料づくりをおこなうことで、組合員も学びが深まった。参加した組合員からは、「自然派の商品は、どれもこだわりがあり特色がある」「味、塩分、かおりにも違いがあるのがよくわかった」等の感想があった。MDラリーをおこなうことで食品添加物、食のなりたち、食育にも関心が高ま

った。「遺伝子組み換えいらないキャンペーン」、放射能照射食品についての「反対連絡会」といった全国運動への参加や表示についての署名活動にも取り組んだ。昨年度は「遺伝子組み換えルーレット」と

#### 4. 全京都勤労者共済生活協同組合 松本 浩 代議員 「熊本地震の対応状況について」



全労済の基本方針は、「組合員の生活再建のために総力をあげて被災者対応をはかり、いち早く被災組合員に共済金・見舞金をお支払いして、労済運動の維持と社会的責任を果たすこと」を最優先課題としている。現場調査は、45日以内に完了させるという予定だったが、6月末まではかかる状況である。支払い業務は、現場調査開始から90日間以内を目指し7月24日をめどに完了させる予定だ。組合員の生活再建のために、請求書類が届いたら7日以内にはお支払いする。訪問調査活動は、最初は、全国動員し20班強の体制でおこなっていた。当初ホテルが営業しておらず宿

泊の確保ができなかったためである。5月12日からは、60班体制で動かしている。京都で大地震が起こった場合、支援を受け入れることができる宿泊施設を確保できるかという課題がある。例えば、協同組合連携で大学のセミナーハウスなどを使用させていただくということも視野にいれておく必要がある。調査は班長と庶務二人一組になり電話でアポ取りをして朝からタクシーを利用して現場調査をする。車内でできるだけアポ取りや共済金の計算をすることにより時間短縮をしている。そのほかポスターを作成、契約マスターにもとづいて葉書を送り、「いち早くご請求ください。いち早くお支払いします。」とよびかけている。ちょっと先が見えてきたが、少しでも早く共済金を支払うためにがんばっていきたくと思う。

#### 5. 乙訓医療生活協同組合 鈴木 文章 代議員 「乙訓医療生協の『支え合いの会』の活動について」



乙訓医療生協は一事業所、一診療所である。医療と介護に責任をもつということで、2市1町に拠点をつくって活動している。2017年度から、地域支援事業が市町村の自治体に移行されるなど、介護保険制度が改定される。これから高齢者の増加と担い手の減少で、お互いに支え合っていくことが大事になってくる。地域のなかで医療と介護の生活支援が包括的に確保されることが求められてくる。わたしたち医療生協の3つの基本である、「であい」「ふれあい」「ささえあい」ということが地域から問われることになる。3月15日に「支え合いの会」を設立

した。支え合いの会には、賛助会員、支援会員、利用会員がおり、支援会員は現在27名も集まった。1単位が30分400円で22単位、1単位100円は運営費として活用できるようにしている。事業化することは難しいが、組合員と一緒に組織をつくり、さまざまな形で助け合っていくことが大事だと考えている。地域包括ケアは支え合いの活動だということを確認しながら、地域の社会福祉協議会とも手をつないでいくことの大切さなど、これからのボランティア活動についても話し合っている。今後の取組みは、くらしコープや京都生協の「たのもっとさん」、シルバーセンターなどいろんなところと手をつないでいこうと呼びかけ、宣伝をしている。

によるものである。供給高は前年比5%減となり、供給高の減少に歯止めはかかっていない。赤字脱出は供給高・利用者の拡大によって達成しないといけない。全国24都府県に職域生協があったが、昨年11月東京都庁生協が解散し、23になった。その多くが赤字で事業展開に苦慮している。また民間企業の

#### 6. 京都府庁生活協同組合 小西 重和 代議員 「供給をいかに拡大するか 正念場！」



昨年この総会で「3年連続の赤字から脱出するために強い覚悟で臨みたい」と発言した。2015年決算はわずかながら黒字で終わることができた。この黒字は経費の削減と臨時の事業外収入

によるものである。供給高は前年比5%減となり、供給高の減少に歯止めはかかっていない。赤字脱出は供給高・利用者の拡大によって達成しないといけない。全国24都府県に職域生協があったが、昨年11月東京都庁生協が解散し、23になった。その多くが赤字で事業展開に苦慮している。また民間企業の

職域生協も困難を抱えているところが多い。現在日本生協連に加入している職域生協は60しかない。自治体関連は34である。京都では府庁生協のみである。

今年は新規採用職員の加入を増やすため、新規採用職員研修において生協説明の時間を15分もらい、直後の昼休みに加入受け付けをおこなったところ、昨年36%だった加入率は63%に、本庁だけでみると79%になった。組合員拡大と存在価値を感じてもら

える生協としての事業をすすめることこそが、供給拡大、赤字減少、組織継続していける体質づくりのカギだと考える。今後も組合員ニーズに一層応えられる事業展開を掲げ府職員の福利厚生の一翼を担い、食の安心・安全、環境、平和、災害復興支援など生協の理念を大切に、魅力ある事業展開を実現すべく努力していく。

## 7. 全国大学生協同組合連合会京滋・奈良ブロック 清水 菜美 オブザーバー 「消費者教育タスクチームの取組み」



消費者教育タスクチームは、大学生協京滋・奈良ブロックの学生委員から自主的に集まった学生とブロック学生事務局で活動している。学生ひとりひとりが、消費者市民社会の実現にむけて、自分自身で考え選択して行動できるようになってもらうことを目的にしている。2013年度に結成され

た。タスクチームでは、消費者トラブル等についての学習会をタスクチーム内で行い、その学習をうけて、教材を制作（リーフレット・動画）し、その教材を使い、出前講座やセミナー等の啓発活動を行っている。消費者教育に興味を示す学生は増えて

も、身近な問題として自覚できないことや、とっつきにくいといった現実があるために、例えば、フェアトレードの問題について理解するために、わかりやすく楽しく、ゲーム感覚で学びあうことができるツール「社会貢献ゲーム」を作った。また、京都府と連携して「くらしのヤングリーダー養成講座」を開催している。セミナーは、学生が明日から何か社会貢献してみようと自覚を持ってもらえるように開催している。今年度は新たに7名の「くらしのヤングリーダー」を取得した仲間がチームにはいってくれた。また私たちタスクチームが中心となって、学んだことを身近に感じてもらい、ひとりひとりが自覚できるようなきっかけづくりというものと学生に意識してもらえる場をつくっていきたい。

## 8. 京都大学生協同組合 食堂企画室 管理栄養士 飯田 朋子 オブザーバー 「キャンパスヘルスにおける健全な食生活習慣の形成の取組み」



京大生協では、従来から健全な食生活習慣の形成のために、卓上メモ、ポスターなどで栄養指導、生活相談会などを開催している。ヘルシー弁当誕生のきっかけは、入学して大学内で食事と健康についての情報を得て、社会にでも自分の健康が守れ、子どもたちを育てられるようになってほしいという大学と

京大生協の願いが一致し、もっと教職員、学生へのサポートが必要であるということでこのお弁当を作った。昨年秋から、13種類のヘルシー弁当を販売している。一番の特徴は、京大の健康科学センターとコラボしたお弁当であること。1食500\*キロカロリー以内、野菜が

最低4種類、多いもので10種類は入っている、塩分は必ず3g以下、どれも1個400円。そしてプラスワンの食べ方として、男子学生には量が少ないので牛乳やヨーグルトをプラスしたり、ごはんがssサイズなので、小さなおにぎりを1個足したり、スープを足すなど、購買部で提案。満腹中枢を刺激する食べ方も提案している。お箸の使い方が苦手な学生が多いので、わざとつかみにくい枝豆、コーンやごぼうをまぜたサラダ、十五穀米などで口に運ぶ回数を多くし、口の中に多種類のものがはいつかむ回数が増えるような工夫をしている。爆発的に売れるものではないが、学生が困ったときにこのお弁当を買って、食生活を見直してほしい。少しずつ意識の中に浸透して、生活改善につなげてほしいと考えている。